

なぜ 英語が話せないの

〈61〉

会話上達法第三部

国会議員でも最も英会話が上手な宮沢喜一・元外相は、実に明快で、きちんとした英語を話す。

昭和二十五年、GHQ(連合軍総司令部)にいたとき、マッカーサー、池田勇人(元首相)会談の通訳を命じられた。マッカーサーは、せっ

つからで、間を置いての通訳(逐語通訳)を許さず、同時通訳を要求。「なんとか、こなしな」。

ライシャワー元米駐日大使は「ザ・ジャパニーズ」の中で、通訳を必要とせず、比較的自由に英語が話せる

日本の政治家は三人と書いて「ニッケニュース」を毎日。ているが、宮沢氏は群を抜「ニューヨークタイムズ」

英語使う目的持とう

あとは地道な努力が肝心

いた存在、といえる。

宮沢氏は、戦前の学生時代、代に英文雑誌や新聞によく目を通し、GHQの仕事や

池田の秘書官となったことで、欧米人と話す機会に恵まれた。現在でも「ジャパ

「英語力と国力は反比例する」と断言する。すなわち、国力が上がると外国語の二一は少なくなる。国力が上昇すると、どうしても英語は下手になる。

「ワシントンポスト」「ラルドリビューン」雑誌では「フォース」そのほか面白い小説、ノンフィクションの「ニクソン・メモ

「w posture」がそので、宮沢氏が使った英語「経済過熱」(over heated econom y)も最近、米国でしばしば使われるようになった。鈴木大拙さんは、禅の本臨

例えば、日本の経済力がつにつれ、日本語が英語になった例もある。「前向き」(forward looking attitude)「低姿勢」(low

の場合、もっと国際交流、相互理解への努力が必要。米国のジャーナリスト、シームス・レストンは「日本人はもっと物事を大げさに言えよ。アメリカ人はもっと、小げさ」に言っ

「やみくもに英語、英語」というより、英語を使って何かをしようとする、何かを見つけた人は幸いだ。一度自問してみるのもムダではない」



「英語学習の目的を持とう」と語る宮沢元外相

thingnessと造る、一般化し始めている。宮沢氏は「日本人の語学力は、国力が上がった今はそれに反比例して落ちていく」という。しかし、共通の文化、歴史、伝統をもつ欧米社会と異なり、わが国努力と英語との幸運な出会いが今日を築いた。その彼